



第16回 光・電波フォーラム

光・電波と宇宙

通信やGPS、気象観測などに使われる光・電波技術は、いまや宇宙開発・宇宙科学の最前線でも不可欠な存在です。本講演会では、地球低軌道を覆う衛星コンステレーション、革新的な超小型衛星による新ビジネス、そして電波干渉計によるブラックホール観測の最新動向を紹介。私たちの暮らしと宇宙がどのようにつながっていくのかを、わかりやすくひとときです。

参加費 無料
先着 100名

Zoom
全国どこから
でも参加可能

日時 ▶▶ 2025年 **11月6日(木)** 13:30~17:00

13:30 開催の挨拶

光・電波技術融合企画ワーキンググループ

主査 永妻 忠夫

13:35 衛星コンステレーションがもたらす価値、そして挑戦

~ 日本電気株式会社 NEC Fellow 三好 弘晃 氏

14:35 近年、低軌道衛星コンステレーションは、インターネットに続く次世代のデジタルプラットフォームとして世界的に期待を集めている。気候変動の緩和と適応、少子高齢化への備え、経済安全保障の強化等、私たちの未来の生活の安全・安心を支える衛星コンステレーションがもたらす価値を分かりやすく紹介する。
そして次世代デジタルプラットフォームの実現の成否を握るのが光衛星間通信技術である。本講演では、光衛星間通信技術の最新動向やNECの挑戦事例を交え、未来のデジタル社会を支える新たな可能性と課題を聴講者の皆さまと一緒に考えていく。



14:40 超小型衛星が切り拓く新たな宇宙ビジネスについて

~ 株式会社アークエッジ・スペース 執行役員 / 経営企画室長(併)ソリューション事業部長 保田 友晶 氏

15:40 超小型衛星の発展により、衛星の開発、製造、打上げのコストが低減するとともに、衛星の多数配置による協調運用(衛星コンステレーション)により、従来の人工衛星では実現できなかった新たな機能的価値を提供できるようになった。本講演では、超小型衛星コンステレーションの設計開発から量産化、運用まで総合的なソリューションを提供するアークエッジ・スペースが開発中の超小型衛星プラットフォームを外観するとともに、そのアプリケーションである地球観測、海洋状況把握・海洋通信、NTN・光通信、低軌道衛星測位等の分野における取り組みを紹介する。



休憩 (15分)

15:55 電波によるブラックホール撮影：地上観測の現状と衛星観測への期待

~ 国立天文台 水沢VLBI観測所 所長 教授 本間 希樹 氏

16:55 2019年4月、国際プロジェクトのイベント・ホライズン・テレスコープ(Event Horizon Telescope)が、楕円銀河M87の中心にあるブラックホールの写真を公開し、世界中で大きなニュースになった。その写真にはドーナツのようなリングが写っており、その中心に「ブラックホールの影」が暗い穴として捉えられていた。さらに、2022年5月には、天の川銀河の中心にあるブラックホールの写真も公表され、M87の場合と同様の姿が捉えられた。本講演では、同プロジェクトで日本の代表を務める講師が、これまでに地上望遠鏡を用いて撮影されたブラックホールの写真の意義についてわかりやすく解説し、さらに人工衛星を用いた将来の観測展望についても説明する。



※プログラムは、事情により変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

主催 ▶▶ 一般社団法人
KEC関西電子工業振興センター

協賛 ▶▶ IEEE通信ソサイエティ 関西チャプター
(予定) 一般社団法人電子情報通信学会 関西支部

参加方法

① 右のコードもしくは下記URLよりお申込みください。

<https://www.kec.jp/seminar/hdf16/>

第16回 光・電波フォーラム

② 聴講用URLが記載された案内メールを送信いたします。

開催日時に、聴講用URLよりログインいただき、ご受講ください。

聴講には、パソコン等の情報端末とインターネット環境が必要です。

最新版のZoomアプリでご聴講ください。ウェブブラウザでも聴講は可能ですが、複数端末での聴講はできません。



※その他注意事項を案内サイトでご確認ください。



一般社団法人
KEC関西電子工業振興センター

お問い合わせ 専門委員会推進部 事務局 河上 茜
〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台3丁目2番地2
☒ publication01@cec.jp ☎ 0774-29-9041